

令和3年度 第45回郷土先人展

佐伯安一の軌跡

【期間】令和3年10月19日(火)～
11月23日(祝・火)

【会場】砺波郷土資料館
砺波民具展示室(庄東小学校3階)

入場無料

〒939-1382 砺波市花園町1-78
TEL.0763-32-2339 E-mail shiryokan@city.tonami.lg.jp
開館時間 9時～17時 休館 月曜、第3日曜



©富山市考古資料館

【主催】砺波郷土資料館 【共催】砺波市文化協会

佐伯安一氏(1930～2016)は、富山県の民俗研究の第一人者で、散村や方言、家屋、民具、年中行事、獅子舞など多岐にわたり、砺波地方の近世史にも大きな業績を残しました。



方言

新田開発と用水



散村と屋敷林



民家

近世の砺波郡



〔金子文書〕



夜高行灯



獅子舞

記念講演

「地域で学問すること

佐伯安一先生の民俗学の重要性と可能性」

《講師》

國學院大學研究開発推進機構

准教授 石垣 悟氏

学芸員による展示解説と
佐伯先生を語る講演

【日時】令和3年
11月6日(土)午後2時より

【会場】砺波郷土資料館
展示室

【日時】令和3年10月30日(土) 【会場】となみ散居村ミュージアム
午後2時より 情報館研修室

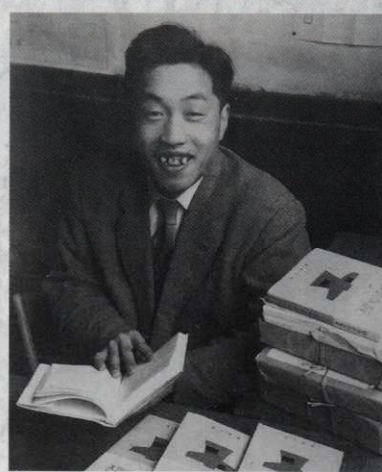
共催/となみ田園空間博物館推進協議会

令和3年度 文化庁 地域と共働した博物館創造活動支援事業



佐伯氏の民俗研究は、学生時代の方言の採取に始まり、茅ぶき屋根の形に注目した民家の研究、五箇山の民俗調査へと広がりました。その後、県教育委員会の民俗緊急調査に参画し、民家、古文書、曳山、獅子舞、諸職、民俗芸能など様々な調査を担当しました。

佐伯氏の民俗学の特徴は、「民俗と近世史研究は車の両輪」と表現されるように、古文書など歴史資料に裏付けられた研究にあります。長い研究活動を通して集積された資料類はご遺族から砺波市に寄贈され、蔵書は砺波図書館で、その他の収集資料、調査・執筆資料などは砺波郷土資料館で整理保存しています。本展では、こうした著書や各種調査、研究記録、寄稿などから研究の一端をご紹介します。



『砺波民俗語彙』の出版
昭和36年(31歳)

主な展示ガイド

民俗研究のはじまり～方言調査～

学友の言葉が地域で違うことに気づいて方言採取を始めたのは氏が13歳の時でした。昭和36年、31歳の時に『砺波民俗語彙』を自費出版しました。

言葉を衣食住などの分類項目で整理し、調査のきっかけとなった地域毎の方言の違いがわかるように構成されています。また、挨拶・ことわざなど生活習俗が反映された言葉も多く集められ、単なる方言辞典ではなく、地域の生活が読み取れる民俗資料に比重をかけた編集になっています。



富山県の民家

昭和20年代、県内には茅ぶき屋根の民家が多数ありました。屋根には「切妻」「寄棟」「入母屋」の3つの基本形がありますが、新川、富山・射水、氷見、砺波北部では入母屋造りが広がり、砺波中部や南部では、強風にも耐えられる寄棟造りの民家が分布していました。また五箇山では勾配のある切妻の合掌造りが基本となっています。

県内の民家の多様性は東日本、西日本の文化の交流点としての特徴と地域の自然条件の相違が要因と考えられます。



富山県の獅子舞

富山県は獅子舞芸能が多い地域です。県西部には胴幕に多数が入る百足獅子が多く、県東部には前足・後足の二人立ち獅子が広く分布しています。

百足獅子には氷見獅子、砺波獅子、射水獅子の3タイプ、二人立ち獅子には金蔵獅子と下新川獅子の2タイプあり、それぞれの分布圏ができています。

県外の獅子舞の調査からそれぞれの獅子舞の特徴や富山県への流入経路が詳細に解き明かされました。



近世砺波平野の開発と散村

砺波郡の村数は、江戸時代初めの慶長10年には五箇山70村を除き462村でしたが、幕末には630村へと新たに168の村が誕生しています。新村は芹谷野、山田野のような台地や高台と野尻川、千保川などの扇状地の旧河床の開発によって作られました。

また、これらの新村では古い村と同様に、家をちりぢりに建てたことから、散居が砺波平野一円に広がることになりました。



佐伯氏がかかわった富山県史及び砺波市史など主な市町村史



各種民俗緊急調査の報告書